

学校教育目標		持続可能な社会づくりを担う、心豊かでたくましい吉野の子どもの育成		重点目標	自分の考えを相手に分かりやすく伝え、聴き合う子どもの育成			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)		評価	コメント	次年度における改善策(案)
重点目標	○確かな学力の育成	○既習を振り返らせたり、課題をもたせる問題を提示したりして、自分でめあてをつくらせる場面の設定	○自分でめあてを考える子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	3	○毎月、学力向上部会で取組指標と成果指標の達成状況を確認し合い、不十分なところについて確認しあったことで、教師の取組への意識の向上につながった。 ○全校一斉に朝の時間に基礎学習に取り組んだことは、基礎的な学力の定着につながった。 △教師の授業力の向上のため、どのような研修をしていくか。	A	・基礎の定着は大切なので、朝の時間の取組を継続していただきたい。 ・達成状況を確認しながら取組を検討されていることで同じベクトルに向かっていると思います。 ・タブレットを活用した共通実践による学力向上に向けた授業の改善に取り組んでいただきたい。	・学力向上を目指し、市販テスト平均80点を目指す。 ・まずは学習規律の徹底を行う。職員で共通理解を図り、共通実践を行う。 ・タブレットを有効活用し、全職員でタブレットドリルの実践を行う。 ・家庭学習強調週間を2週間にし、自主学習に取り組み、学校テストを実施する。
		○自分の考えをノートやタブレットに書く時間の設定	○自分の考えを書く子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	3				
		○自分の考えを友達に伝え、聴き合う時間の設定	○自分の言葉で授業の振り返りを書く子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	3				
		○授業の終わりに何を学んだのか、分かったこと等を振り返る時間の設定	○市販テスト80点以上6割 教師アンケート3.0P以上	3				
に 関 る 評 価	○自尊感情と思いやりの心の向上	○全校で「あいさつの木」の取組 ・全学級の「あいさつの木」の取組掲示	○気持ちのよい挨拶への意識 児童ア3 教師ア3.0P以上	3	○生徒指導部会による「あいさつの木」の取組は、各学級において励みとなり、掲示したことで意欲の向上につながった。 ○乱暴な言葉を遣う児童は減ってきている。 ○学校生活アンケートにおいて、友達関係はどの学級も良好である。 △「さん」付けは今後も継続指導が必要である。	A	・「あいさつの木」「黙々掃除」等分かりやすい活動目標を設定し励まし賞賛し合うことで成果が上がったと思います。 ・取組が視覚化されていることが児童の自信に繋がっていると思います。 ・見守り活動を通じて大きな声で挨拶することを楽しみにしています。 ・「さん」付けの継続指導と先生方の指導基準の統一をお願いしたい。	・「あいさつ」「ぼかぼか言葉」「黙々掃除」の徹底を図り、視覚化して励まし賞賛していく。 ・「さん」づけの徹底を図る。「さん」づけは優しい言葉であるということを抑えさせる指導を行う。 ・次年度も進んで挨拶ができるように、毎月の自己評価と教師の声かけにより継続指導していく。
		○「さん」付けや「ありがとう」等のぼかぼか言葉(優しい言葉)遣いの日常指導(毎月、児童自己評価)	○ぼかぼか言葉を遣う子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	3				
		○「黙々掃除」の徹底 ・「だ(黙って)・い(一生懸命)・じ(時間いっぱい)」の徹底	○黙って時間いっぱい掃除をする子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	3				
		○道徳の時間の充実 ・振り返りで自分を見つめる時間の確保	○振り返りで自分を振り返る子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	3				
○体力の向上	○体育学習での運動量60%以上の実施(確保) ・移動は必ず走ることを徹底 ・主運動の時間の確保(30分以上)	○体育の時間の運動量60%の確保 児童ア 教師ア3.0P以上	4	○暑い日や寒い日が多いため、なかなか外遊びができない日が多いが、声かけにより外遊びをする児童は増えている。 ○縄跳び運動も暑い日が多いため、寒い時期しかできなかったが短縄を持って遊ぶ児童が増えた。 △暑さ指数を見ながら児童の健康管理に気をつけ、体力向上を図る必要がある。	A	・教職員の若返りに伴い、体育学習が活発になっている様子が伺えます。 ・猛暑等もあるが、児童の健康管理に気をつけて休み時間に外で体力づくりをする取組は継続していただきたい。 ・少しでも運動に親しめるように尽力されていることが分かった。	・全職員で共通理解し、気候のよい日は外遊びを奨励する。 ・短縄や大縄を奨励し、体力向上を図るとともに、友達関係や学級経営の向上に取り入れる。 ・団体行動の仕方を学習し、体育の時間をはじめ集団で行動する時は機敏に活動できるように指導する。	
	○運動の日常化を図る ・1日15分以上の運動(外遊びの奨励)	○外遊び15分以上する子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	4					
	○持久力とチームワークを高める縄跳び運動の実施 ・体育のはじめに短縄1分跳び ・休み時間を活用した大縄跳びの実施	○短縄や大縄に意欲的に取り組む子ども 児童ア 教師ア3.0P以上	4					
い じ め 防 止	○認知したいじめの解消	○早期発見・早期解消の取組の実施 ・毎月の児童アンケート、教師チェック等 ・毎回、アンケート結果に基づく教育相談 ・適宜、関係者会議での状況、取組の共有	○認知したいじめの早期解消 ・4ヶ月以内の解消100%	4	○管理職による確実な見取りを実施した。 ○保護者用アンケートは、保護者への聞き取りを確実に実施し、管理職が見取りを行った。 △規律ある支持的風土の学級づくりに特化した研修を実施し、学級経営力の向上を図る必要がある。	A	・認知したいじめの解消100%は、アンケート・教師のチェック・研修・情報の共有等の取組により成果が上がったと思います。 ・いじめの早期発見については、よく対応できていると思いました。	・いじめについての研修会を次年度も講師招聘して行う。 ・次年度もアンケートの実施と教育相談を確実に行う。 ・規律ある支持的風土の学級づくりに特化した研修を実施し、学級経営力の向上を図る。
		○家庭との連携 ・家庭用チェックリストの配布	○保護者への聞き取り100% 教師ア	4				
		○教職員のいじめに特化した研修の実施 ・職員研修(学期1回) ・いじめ防止対策委員会(年3回以上)	※未然防止の視点から ○いじめに対する意識 ・児童3.0P以上	4				
不 登 校 防 止	○不登校児童の減少	○未然防止、早期解消の取組の実施 ・毎月の児童アンケート、毎週の欠席状況とその結果に基づく教育相談 ・関係者会議での状況、取組の共有	○不登校傾向児童 ・前年度比減少 ・「学校は楽しい」 児童ア3.0P以上	4	○「学校が楽しい」と答えた児童が8割を超えている。今後も行きたい学校、学びたい学校を目指していく。 △不登校児童の総数は増加している。外部との連携を継続する。	A	・学校での環境より家庭内環境の方が影響が大きいかもしれません。 ・地域でも住人の多様化があります。保護者も同様だと思います。今後も大変だと思います。	・家庭と連絡を取り合い、SSW等の関係機関と情報交換を行いながら早めの対策を実施する。 ・気になることは報告・連絡・相談を確実に行うようにする。
		○福岡アクション3の実施の徹底 ・マンツーマン対応、3日連続欠席児童対応等	○福岡アクション3の実施 100% 教師ア	4				
働 き 方 改 革	○教職員の適正な勤務	○定時退校日の学年設定とその実施 ・毎週1日の設定と職員室黒板への明記	○時間外勤務時間 ・前年度比10%減少	3	○時間外勤務80時間を超える職員はなかった。教職員の意識改革は少しずつ進んできている。 ・放課後の時間を確保できた。	A	・効率的な職場環境の構築や業務改善を行い、更なる推進をお願いします。	・終礼等で働き方改革について周知し、教職員の意識改革を図る。 ・業務の効率化について職員と一緒に考え実行する。
		○働き方改革委員会等による取組の推進 ・毎月、時間外勤務状況の把握と対応の共有 ・放課後の時間の確保	○時間外勤務80時間以上を2人以下	3				

◇ 評価について 【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)  
【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである